フークトーブ通信 72

戦前の京都で撮影された「じゃんがら念仏踊り」写真

白石 烈（東京都）



「じゃんがら念仏踊り」は、いわき市域を中心に、毎年新盆の家を廻り、太鼓や鉦を打ち鳴らしながら供養する民俗踊りである。起源は江戸時代とされ、平成四年（一九九二）に市の無形民俗文化財に指定されている。本稿では今から約九〇年前に、福島からはるかに離れた京都府で撮影された、貴重なじゃんがら念仏踊りの写真を紹介したい。

京都府立京都学・歴彩館には、京都出身の民俗研究家矢野豊次郎（一八九七年生まれ）が撮影・収集した矢野家写真資料約三〇〇点が所蔵されている。このうちの九点が「磐城ジャンガラ念仏」と題する写真で、撮影時期は昭和十三年（一九三八）四月、場所は京都市にある浄土宗寺院の檀王（だんのう）法林寺である。写されているのは「磐城国飯野村青年団」の中山（現いわき市平中山）の男性十一人からなるじゃんがらで、同寺で挙行された袋中上人（たいちゅうしょうにん）三百回遠忌法要行事の一環として奉納された際のものである。袋中上人（一五五二～一六三九）は現在のいわき市常磐地区で生まれた江戸時代前期の浄土宗の僧。檀王法林寺を復興したことで知られるが、じゃんがらの発案者説もある（否定説もあり）。



「磐城ジャンガラ念仏」写真の最大の特徴は、単なる記念写真ではなく、じゃんがらの詳細を記録する目的で撮影されている点にある。いずれもガラス乾板に映された高精細写真といえ、浴衣・鉢巻き・白手甲などの衣装の他、太鼓の胴巻きの文字まで明確に判読でき、非常に記録性の高い写真と評価できる。

いわき市の中山青年団は現在も活動を継続しており、写真と比較すれば現在との共通点・相違点も判明するだろう。また、管見の限り「磐城ジャンガラ念仏」写真はじゃんがらを撮影した最古の写真である可能性がある。しかし、いわき市域にはこれより古い写真が残っているのではないだろうか。今後、明治・大正期のじゃんがら写真が発掘されることを期待したい。

（※「磐城ジャンガラ念仏」写真九枚は、すべて京都学・歴彩館ＨＰの歴史資料アーカイブで公開されています）